



Built To Last! そして未来へ

The Jerry brassfield Story — In His Own Words

ジェリー・ブラスフィールド物語 — 彼の言葉より

ネオライフ創設者のジェリー・ブラスフィールドの言葉を借りると、「ネオライフの歴史は、健康促進、経済的向上、そして個人的成長という3つの非常に力強い柱で構成されています。」
そのお陰で私たちは今、ネオライフの60年にわたる歴史を祝うことができます。

「私は19歳の時に栄養補助食品企業のディストリビューター になりましたが、きっかけは幼少の頃に遡ります…」

「私は小さい頃に深刻な喘息と花粉症を患っていました。私の家族はカリフォルニア中部の農業地域にある小さな町に住んでいて、毎年ある季節になると私は死にそうなくらいに苦しみました。母はもちろん病院にも連れて行ってくれましたが、医者の方ではどうにもできませんでした。

当時は今のような薬がなかったため発作を止められなかった上、病院に行くとなかなか経済的な負担がかかりました。そこで私の母は他の方法を探し始め、栄養補助食品を見つけました。その味は極めてひどいものでしたが、私は元気をとりもどしたのです。」



「また、私は将来の可能性を感じられませんでした。父はクリスマスプレゼントを買うお金がなく、私は他の子供たちのようにプレゼントをもらえなかったのです。父を気の毒に思い、父がどんな思いをしているかを考えると申し訳ない気持ちになりました。」

「このような健康上の経験と子供の頃に感じた将来への不安という二つの要素が、ビジネスチャンスとして栄養補助食品と出会った時の大きな原動力となりました。当時さまざまな医療機関から“栄養補助食品は役に立たない”と言われていた中で、私は体験に基づいた真実とゆるぎない信念で、これらの困難を乗り越えてきました。私は自分自身の経験から、栄養補助食品が本当に素晴らしいものであるということを知りました。」

「しかし不運にも、私が参加した会社は1年半で倒産、次に移動した会社もまた年半で経営難に陥りました。非常に苦戦しましたが、そのときのディストリビューターとともに、後のゴールデン・プロダクツ社を設立しました。これらの経験やこのディストリビューターたちが、現在のネオライフの始まりとなったわけです。」



「私の初期のビジョンは、カリフォルニア州ポルタービル市周辺の全ての小さな町にビジネスを拡大することでした。私にとってはロサンゼルスやサンフランシスコはあまりに大きすぎて、そして遠すぎました。ビジネスはしばらく小さな規模のままでしたが、少しずつ広がり、私たちはより大きな夢を描くようになりました。」

その後、私たちはアメリカ全土にビジネスを展開しさらには海外進出を考え始めました。

しかし最初の目標は借金を返済することだったのを今でも忘れてはいません。その次の目標は5千ドルの貯金、そして1万ドルの貯金でした。そして、こういった段階的な目標を達成したことによって、私はさらに大きな目標を夢見るようになったのです。これが非常に重要なことです。目標を達成するたびに、新たな目標を見出すために自分自身をリセットしなければなりません。」

ゴールデン・プロダクツ社はドン・ピケットが1958年に設立したネオライフ社と取引があり、ドンは私たちにネオライフ社へ参入して欲しいと考えていました。そのため、最終的にはドンが退陣する際にネオライフ社を私たちへ売却したのです。

ドンはディストリビューターのことを非常に気にかけていて、自分が得た利益を大きくすることよりも気にかけるほどでした。ドンはネオライフ社を引き継ぐのは私たちであると考えていたため、話が非常に簡単にまとまりました。」

「これがゴールデン・プロダクツ社とネオライフ社が統合した経緯です。しかしそれ以前に、私たちはダイヤモンド社に投資していました。そして、ダイヤモンド社の経営陣の退陣を機に、今こそこれらの3つの会社を統合してGNLDを設立する時だと感じたのです。弟のボブが真の事業計画立案者で、当時すべてを統合し見事な働きを果たしました。困難が伴いましたが、この3社には共通する点が多く、自然と統合に適応しました。」

「GNLD時代から現ネオライフインターナショナルに関わっている多くの人々とともに、確実に以前にも増して、賢明で確固とした信念のある企業になっています。私は今後60年間に起こることを予測さえしようとはしませんでした。初めからそういったことを過小評価していたようです。しかし、将来を見据えて“高品質の栄養補助食品や個人的な成長、経済報酬は今後数十年も多くの人々に求められるだろうか？”と自問する時には、もちろん“Yes!”と答えます。なぜならば、これらはいつの時代であっても人々が望むものであるからです。」

私たちには土台があり、それを今後も信じ、守り、そして奮闘し続ける価値観があります。そして、私たちが正しいことを行い、高品質の製品と健全な経済的可能性を提供するという信念のもとに献身的に取り組み続ける限り、将来は私たちの手で切り開くことができるのです。」

